

大田区立大森東福祉園

令和3年度事業報告（4月1日～9月30日）

1. 運営方針

「この街に生きる」

誰でも生まれ育った地域で豊かに暮らし続けることができるよう、支援します。

2. 職員等配置

職員26名・非常勤職員6名・嘱託医2名 合計34名

3. 今年度の重点目標に対する取り組み状況

法人重点推進事項		(3) 質の高い支援 (4) 福祉人材の確保・育成・定着	回数・日付	人数
1	多様なニーズに 応える研修 充実による 「業務の質の 強化」	内容 ・事例検討を通じた人材育成と風通しの良いチームづくり →①他事業所の支援統括責任者にも参加を依頼して実施。アセスメントを基にした、根拠のある支援について学んだ ②法人統一標語や服務規律の遵守、就業規則について確認や研修を実施 ・タブレット端末を活用した意思決定支援や余暇活動の向上 →動画やアプリ活用による社会ルールの学習や活動への意識付け、個々にあった余暇活動を提供 ・家庭・関係機関等との連携による質の高い支援の提供 →さんさん幸陽との連携による本人・家庭状況に合わせたサービスの提供、社会資源の活用。新型コロナウイルス陽性者発生時や家族の急病の際も連携して対応した	①2回	42名
			②7/28	32名
			通年	-
法人重点推進事項		(1) 事業の機能強化 (5) 活力ある組織・経営基盤づくり	回数・日付	人数
2	自主生産品販売強化による「利用者の社会活動拡大」と「他事業所	内容 ・作業工程及び生産ラインの確立による生産体制の整備 →生活班単位での作業日の固定化と、作業工程の分業制により生産性が上がっている →材料費の見直しによるバスボムの価格改定	6/21	-

	間連携強化		<ul style="list-style-type: none"> ・「おおむすび」取り組みへの積極的な参加 <p>→①対面販売やワークショップができない時はバスボムキットを販売し好評を得た</p> <ul style="list-style-type: none"> ②毎週金曜日の園前販売の継続、また自主生産品だけでなく、法人内外の事業所の製品も販売 ③ふるさとの浜辺公園内カフェからの依頼で、新聞紙を利用したエコバッグを納品。使用する英字新聞は地域の図書館から提供を受けた 	① 10回	-
3	日中一時支援事業との連携	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアサポート幸陽と連携を図り、運営日数の増加を検討 <p>→従事スタッフの確保に課題があり、日数の増加には至っていないが、出席意欲の向上、家族のレスパイトに貢献した。契約者14名。</p>	42回	125名
4	委託業者の「効果的活用」検討	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・給食メニューの充実 <p>→毎月メニューのセレクトを実施。また季節メニューや「丼シリーズ」も好評だった。多様な食形態や治療食にも対応した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・送迎外運行の活用による事業の強化 <p>→生產品等の搬出入に効果的活用(ふれんど、カフェヴァリオ、共立信用組合、アルミ缶納品等)</p>	通年	-
				通年	-
法人重点推進事項 (2) 地域公益活動の推進				回数・日付	人数
5	事業内活動、設備の「地域公益活動の強化」	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの検討、各機関・団体との連携による施設開放 ・地域向け活動の充実 <p>→①近隣の高校、小学校に職員が講師として参加。障害理解への活動を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ②地域の缶回収実施 ③新型コロナワクチン巡回接種を実施 	①7/21 6/14	1名 1名
				②通年	
				③9/2 9/30	17名 18名

6	災害時の実態を想定した地域向け避難所開設訓練の検討	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の対応マニュアルの更新 <p>→大田区の風水害対策の強化に基づいて「洪水時の避難確保計画」及び福祉避難所マニュアル(震災)を改訂</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実態を想定した訓練の実施 <p>→上記の避難確保計画を活用した職員向けの水害時防災訓練を実施</p>	6/30	- 25名
---	---------------------------	----	--	------	----------

4. 利用者受入等・年間作業売上金の分配 *日数・%等は前年同期比

定員	開所日数	平均利用者数	稼働率	利用率
----	------	--------	-----	-----

45人	117日(-1日)	45.5人	98.7%	+2.4%	92.4%	+5.8%
年間作業売上金の分配		作業収益金として7月に配布(1回目)			3,000円	

※上期サービス活動収益(暫定):122,289,536円(前年度:124,284,545円 -1,995,009円)

5, 年間行事

4月	生活班別懇談会*
5月	
6月	
7月	大森東福祉園まつり*
8月	団地祭*
9月	宿泊訓練*

*新型コロナウイルス感染防止対策のため中止

6, 権利擁護・虐待防止の取り組み

	実施項目	具体的取組	回数・日付	人数
1	虐待防止 権利擁護	法人統一標語「しない・させない人権侵害・法令違反」の周知とチェックリスト実施 法人の原点研修及び虐待防止権利擁護研修を受講 「虐待防止対応要綱」に基づく法人および事業所虐待防止・人権委員会を開催 障害者虐待防止法に基づく大田区の実事確認調査結果において、虐待の認定を受ける。 個別支援計画モニタリングに合わせた事例検討の実施、支援の検証 相談支援従事者との連携 ボランティア・実習生受入(実習生アンケートからの意見・声など)	4、6月 8月 4回 9/8 8、9月 随時 随時	32名 — —
2	苦情解決	「苦情解決制度に関する要綱」に基づき適切に対応 →該当案件なし	—	—
3	個人情報保護	「個人情報保護規程」および「特定個人情報取扱規程」に基づいて適切に対応 →職員:日頃からの取扱いに留意 利用者:同意書により対応	通年	—

*全般→要綱や規定については、職員の理解を更に進めていく取り組みを行っていく。

7, 人材確保・育成とサービスの質向上の取り組み・研修

*平成31年3月の「障害者虐待防止特別委員会答申書」に基づく取り組み

「専門性に基づく支援のスーパーバイザー育成」

	実施項目	具体的取組の内容	回数・日付	人数
1	OJT・職場内研修	新任職員 OJT に担当制(トレーナー)を活用 リスク検討を通してヒヤリハット改善への対応 サポーターズカレッジ視聴による研修実施(「自閉症スペクトラム障害の理解」「ケース記録の書き方」)	通年 通年 6、7月	4名 — 53名
2	外部研修	<u>以下、オンライン研修</u> 初めて社会福祉を学ぶ福祉職員のためのスタートアップ研修：東社協 強度行動障害支援公開講座：東社協 栄養ケアマネジメントについて：東社協 虐待防止・権利擁護研修：東社協 ファシリテーション研修：東社協 リスクマネジメント研修：東社協 強度行動障害支援者養成研修：都福祉保健財団 東京都サービス管理責任者研修：都福祉保健局 発達障害(自閉症)をとらえなおす：都通研 障害者虐待防止・権利擁護研修：都福祉保健財団 社会福祉事業従事者人権研修：都福祉保健局 障害者支援施設等の新型コロナウイルス感染防止対策研修：都看護協会	1回 1回 1回 1回 1回 1回 2回 1回 1回 1回 2回 1回	2名 1名 1名 1名 1名 1名 2名 1名 1名 1名 2名 1名
3	自己研鑽支援	資格取得支援の周知、研修情報等の提供・書籍等の購入・回覧	—	—

8. 地域公益活動の推進

	実施項目	具体的取組の内容	回数・日付	人数
1	地域まつり	大森東福祉園まつり→中止 書面での実行委員会に基づき決定	—	—
2	地域交流行事	下期の開催可否や実施方法について検討中	—	—
3	地域向け土日施設開放	高齢者対象イベントの後援、地域団体への施設開放、団地祭への参加と映画会の開催 →中止	—	—
4	アルミ缶回収	地域、町会からのアルミ缶回収。団地からの回収は中断中。	随時	—

9. 地域・関係機関連携

	実施項目	具体的内容	回数・日付	人数
1	地域交流・連携	① 大森東小学校との交流 →代替企画として	6/14	1名

		施設長が小学校の朝礼に参加し、障害理解について講義 ② 新聞紙エコバックの納品と図書館からの英字新聞紙提供	随時	—
2	福祉人材受入	社会福祉士実習 保育実習 ボランティアの継続的受入	69日 11日 随時	4名 1名 156名
3	広報活動等	広報紙「きりん草」を発行し、新施設長の挨拶や園前販売の紹介を行った。また発行に合わせてHPを更新	1回	—

10. 法令遵守に関する取り組み

*平成31年3月の「障害者虐待防止特別委員会答申書」に基づく取り組み
「経験職員等の多様な人材を活かしあう事業所づくり」

	実施項目	具体的取組	回数	人数
1	法令遵守	法令遵守推進に関する関係法令・条例・法人諸規程等に基づき適切に対応	—	—
2	「働きやすい職場」づくり	「TOKYO 働きやすい福祉の職場宣言」の継続した取り組み推進及び、「働き方改革」に対応した法人の取り組みとの連携→勤怠ソフトやマニュアル等の活用。また新型コロナウイルス感染防止対策に基づき、勤務の調整や職員が集合しない際の書面やデータでの引継ぎを実施	—	—

2. 「働きやすい職場」づくり→継続したマニュアルの作成や更新、業務時間の管理等を継続して行っていく。

11. 危機管理

	実施項目	具体的取組	回数	人数
1	事業継続 (BCP)	新型コロナウイルス感染防止、風水害時の対応計画に基づき整備	—	—
2	防災関連	①定期防災訓練および非常時通報訓練 ②職員による建物設備自主点検・日常点検	①5回 ②毎日	255名 —
3	緊急時対応	「危機管理標準マニュアル」により対応	—	—

*全般→災害時の対策は法人や区の方針に基づき、最新のものを随時取り入れていく。

○新型コロナウイルス感染症に関する特別報告事項

・合計3名の感染者対応

日付	内容	対応等
----	----	-----

8/20(金)	利用者1名が陽性の連絡	利用者家族に緊急メールと電話で連絡
8/23(月)	利用者1名が陽性の連絡	利用者家族に緊急メールと電話で連絡
8/24(火)	職員全員PCR検査実施→1名の陽性が判明	濃厚接触の特定に時間を要する為、8/25(水)は臨時休園とした
8/26(木)～ 9/3(金)	利用者・家族に「可能な範囲での登園自粛を依頼」	概ね4割の利用者が登園

***大田区のワクチン巡回接種を9/2(木)、9/30(木)に実施した。**

12, その他

令和元年度 第三者評価受審結果よりさらなる改善が望まれる点への取組

○特に良いと思われる点

タイトル1	地域と交流の機会を多く設け、交流を深めている
取組内容	③ →感染症対策を継続しつつ、代替企画として施設長が近隣小学校の朝礼に参加し、障害理解について講義。下期の企画については開催可否や実施方法について検討中
タイトル2	多様な活動を通じて利用者が主体性のある生活を送れるように支援している
取組内容	→障害特性別に分かれた班編成に基づきながら、運動メニューの実施や、自助具を活用して制作した自主生産品の定期的な園前販売を実施。
タイトル3	個別支援計画の定期的な見直しを行っている
取組内容	→振り返り、まとめ、新たな計画の作成を、スケジュールに沿って担当班および関係職員が参加する会議にて実施。虐待認定を受けて、身体拘束の記載がある利用者すべての個別支援計画を見直し中

○さらなる改善が望まれる点

タイトル1	事業計画の進捗状況を定期的に会議で共有し、計画的に推進
取組内容1	→運営会議で定期的に進捗状況を確認し、計画的な推進を図っている
タイトル2	キャリアパスに基づいた職員育成目標の明確化
取組内容2	→チェックシートを用いてOJTの進捗確認を行なっている
タイトル3	マニュアルを効果的に活用した業務の推進
取組内容3	→防災や研修、実習受入れ等の各種マニュアルを改訂中